

京極町の調査結果（概要）

1 調査の目的

全国一斉に実施する全国学力・学習状況調査を活用し、本町児童生徒の学力や学習状況を客観的に捉え、改善を図り、義務教育段階での確かな学力と望ましい生活習慣の定着に役立てることを目的としています。

2 調査の内容

- (1) 調査期日 令和6年4月18日（木）
- (2) 対象学年 小学6年生 中学3年生
- (3) 教科に関する調査
 - ・小学校6年 国語、算数
 - ・中学校3年 国語、数学
- (4) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 本町における調査結果の公表について

義務教育9年間は、将来、社会に出てから必要な「確かな学力」を身に付ける大切な時期であり、学校・家庭・地域が共通の目的をもって各々の役割を認識し、協働して学力向上の取組を進めていくことが大切です。その為にも、本町児童生徒の学力及び学習状況の実態を知っておくことが必要なことから、参考資料として、本町の調査結果を公表しています。

4 調査結果の解釈について

- (1) 本調査問題によって計ることのできる学力は、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に限られます。
- (2) 本町は調査対象数が少ないことから、一問に対する正答・誤答、一人の結果が、学校の平均正答率を大きく変動させることとなります。また、問題の傾向や難易度も違うため、各年度の平均正答率は単純に比較できるものではありません。
- (3) 各学校では、調査結果を次の指導に生かすことが何よりも重要と考え、結果にもとづいた授業改善に取り組んでいます。

R6 全国学力・学習状況調査の分析について

京極町教育委員会

令和6年度の全国学力・学習状況調査結果が判明した。全国学力・学習状況調査は、一般的にイメージされるテスト問題と比べると、問題数が少ない（今年度は14～16問）ことから、正答数の1問の差が正答率では7%前後となってしまう。

また、本町は児童生徒数が少ないため、分布の両極端に位置する児童生徒の影響が平均に反映されやすくなる。

このことから、平均正答率をもって一喜一憂すべきものではないと考える。

そして、文部科学省からは、調査結果の活用について以下のように示されている。

- ①教育委員会及び学校は、多面的な分析を行い、教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、改善に取り組む。
- ②学校は、調査結果を踏まえ、児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努め、学習指導等の改善に向けて取り組む。
- ③教育委員会は、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進める。

そのため、児童生徒の学習状況の改善に資するよう、学校の授業・学力向上の取組改善、教育委員会の支援の工夫改善につながるような分析としたい。

※表の記号は

- ◎十分な成果が出ているもの ○もう少し工夫が必要なもの
△課題と考えられるもの

1 教科の傾向

(1) 国語

①学習指導要領の内容

	小学校	中学校
言葉の特徴や使い方	○	◎
情報の扱い方	△	△
我が国の言語文化	△	◎
話すこと・聞くこと	◎	△
書くこと	○	◎
読むこと	◎	○

②評価の観点

	小学校	中学校
知識・技能	△	◎
思考・判断・表現	◎	○

③問題形式

	小学校	中学校
選択式	△	◎
短答式	◎	◎
記述式	△	△

小学校・中学校に共通する課題としては、「情報の扱い方に関する事項」であることがわかる。また、問題形式では「記述式」に課題があり、「短答式」では十分な成果が出ていることがわかる。

「短答式」問題の概要

「情報の扱い方に関する事項」

(中学校の実際の問題)

2

①学習指導要領の内容

	小学校	中学校
数と計算	△	△
図形	◎	○
変化と関係	◎	△
データの活用	△	△

③問題形式

	小学校	中学校
選択式	○	○
短答式	◎	△
記述式	△	△

②評価の観点

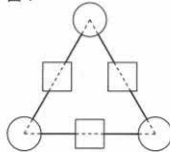
	小学校	中学校
知識・技能	○	△
思考・判断・表現	○	△

小学校・中学校に共通する課題としては、「数と計算」「データの活用」であることがわかる。また、問題形式では「記述式」に課題があり、国語と共通した課題となっている。

④成果と課題の検証

全体の検証をする前に、中学校の数学については正答数0～3問の生徒が5名（小学校は1名）いることから、これらの5名については全体課題に含めて考えることよりも、個別の課題として支援のあり方の工夫を検討するものがよいと思われる。

ア) 成果のあった問題の概要

小学校	中学校
作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点对应する頂点を、回転後の正方形から選ぶ
円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	⑥ 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。 図1 
直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	
五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	

イ) 課題のあった問題の概要

(数と計算)

小学校	中学校
問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ(小2)	nを整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す
$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く(小3)	等式 $6x \times 2y = 1$ をyについて解く
$540 \div 0.6$ を計算する(小5)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する(上の□内)
示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く(小2・3)	

○問題場面に「少ない」「減った」などの言葉があるが、計算は加法を用いる。問題の文脈に沿って図などに表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるようにする。⇒問題文末に「のこりは」だから「減法」、「ぜんぶで」だから「加法」のような指導にならないようにしたい。

○問題場面の数量の関係を図や式を用いて場面と関連付け、計算に関して成り立つ性質を活用し、計算を工夫できるようにすることが大切。⇒自力解決が難しい児童生徒への支援や工夫が鍵

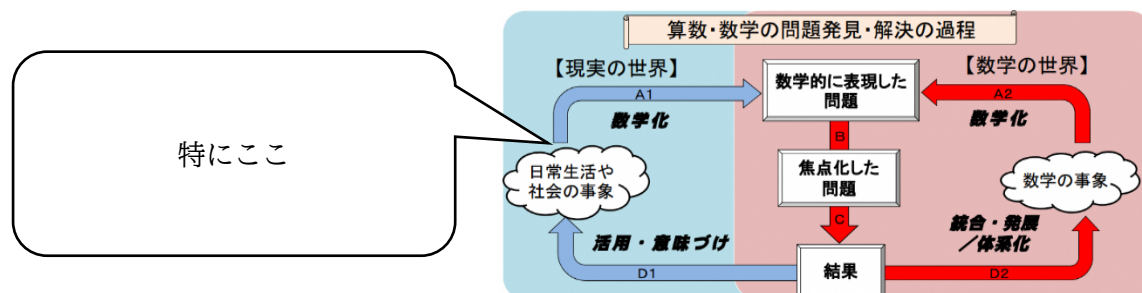
○数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、総合的・発展的に考察するようにすることが大切。

(データの活用)

小学校	中学校
折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く（小3・4 データの活用）	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める
示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く（小2数と計算、小3データの活用）	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める（小6データの活用との関連有）
	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ

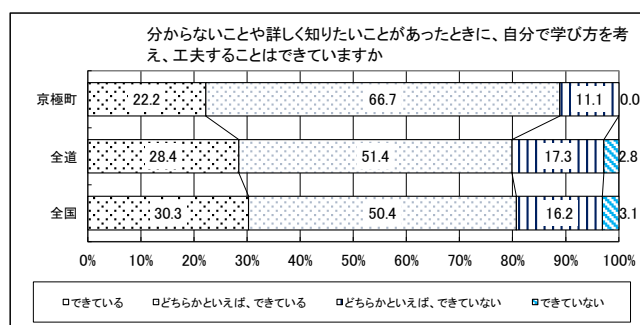
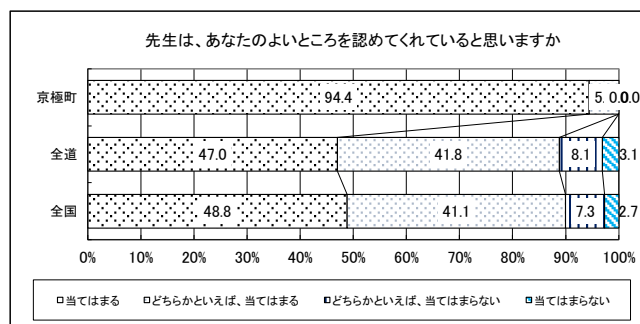
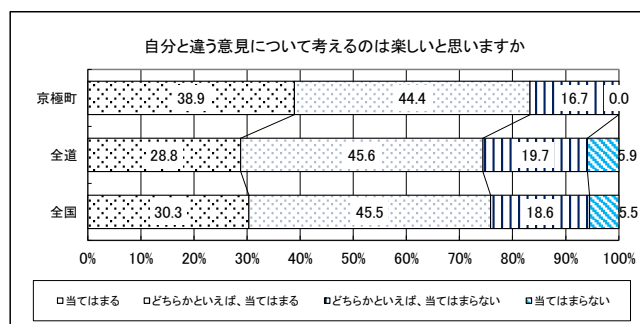
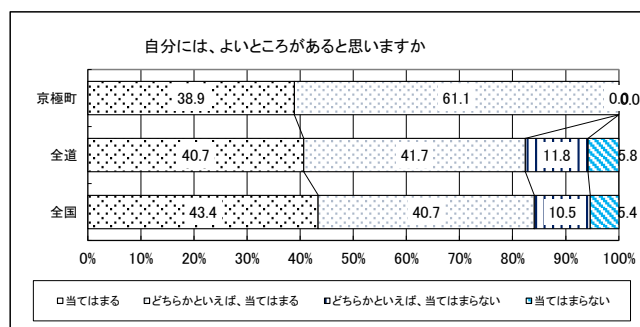


○日常生活の問題を解決するために、目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、身の回りの事象を数学的に考察することが重要。⇒日常生活との関連により、学習内容の確かな定着が望めるものであることから、以下の指導課程を児童生徒と共有し、学習のふりかえりの視点にしたり、学んだことを日常の場面に生かす自主学習を推奨したりしていきたい。また、共有することで児童生徒が自発的にそのような学習を計画的に実施していくことも期待できる。

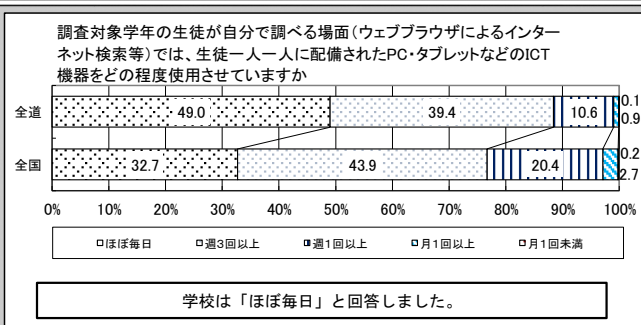
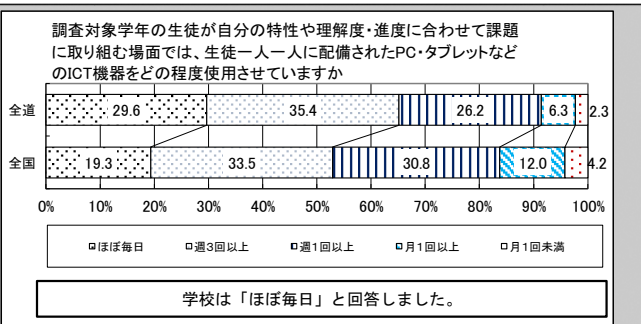
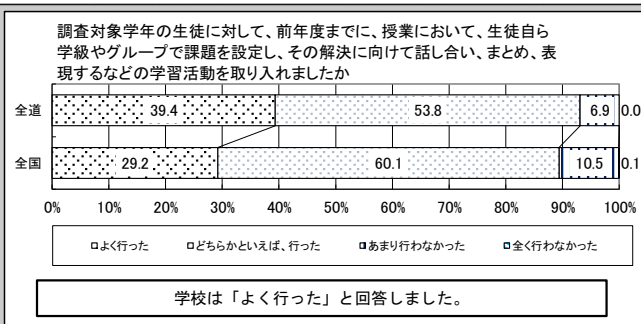
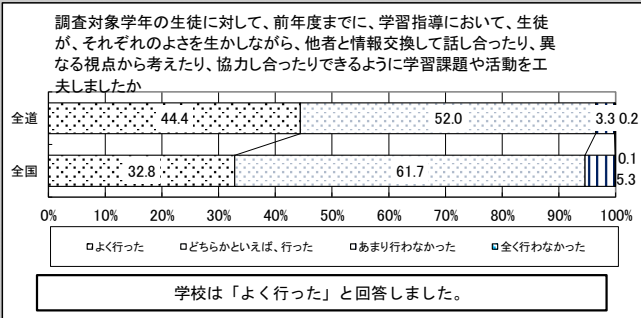


学習指導等

<児童質問調査>



<学校質問調査>



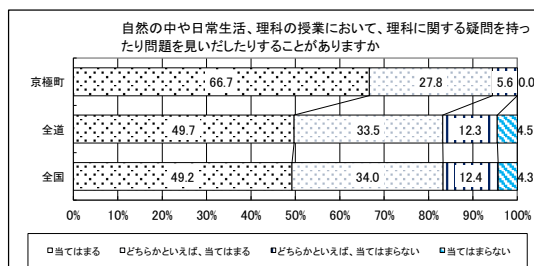
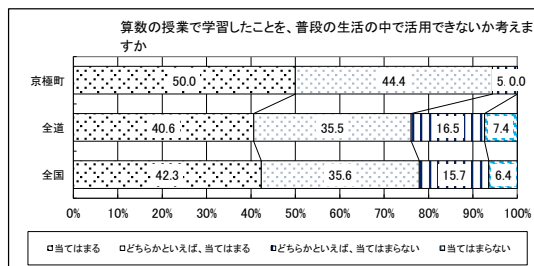
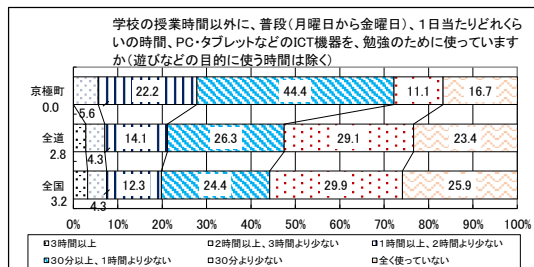
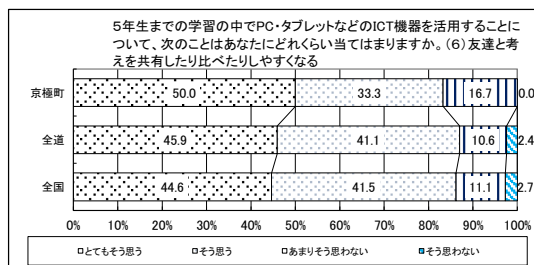
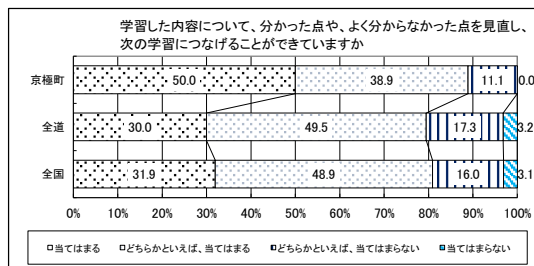
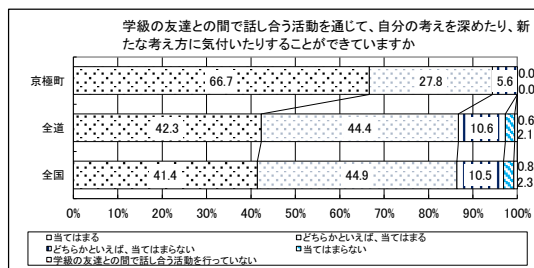
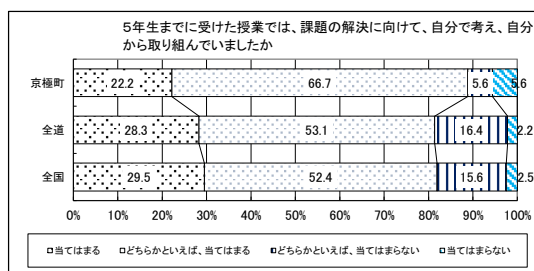
【考察】

「自分には、よいところがあると思いますか」の質問について、否定的な回答をした児童が0名であること、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても否定的な回答が0であるばかりか、全国平均の2倍以上「当てはまる」の最も肯定的な回答をしていることが特筆すべき点であると言える。学級全体として、「承認欲求」「所属欲求」の高い望ましい傾向にあると言える。

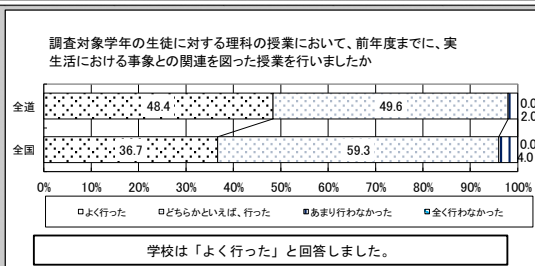
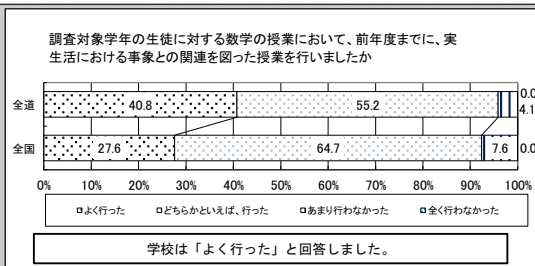
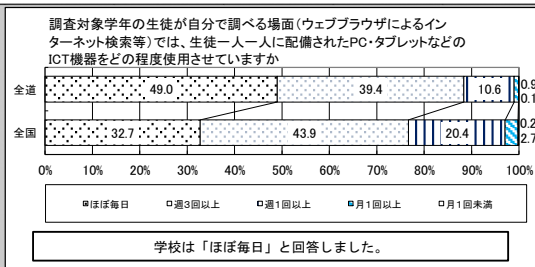
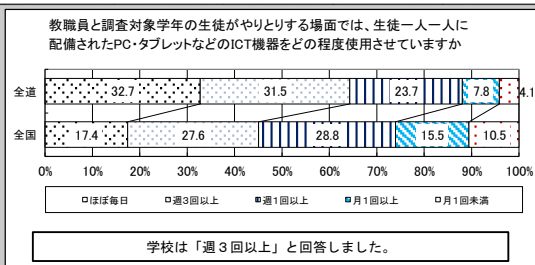
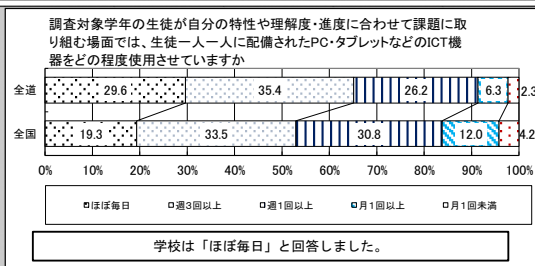
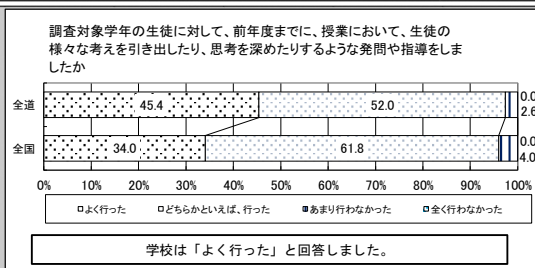
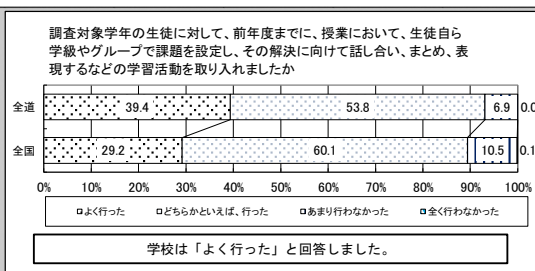
また、授業改善のヒントとなる質問についても、ほとんどの質問で肯定的な回答を示す児童の割合が、高いこともわかり、授業中においても概ね児童の満足度は高いものと思われる。

しかし、クロス分析からは、ICT機器の活用について課題があり、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」や「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」について、学習内容の定着が高い児童の方が否定的な回答を示す傾向にあることがわかる。「個別最適な学習」についてや、「他者参照」を含めた互いの考えを共有する方法については、工夫・改善が必要であることがわかる回答結果となっている。

<児童質問調査>



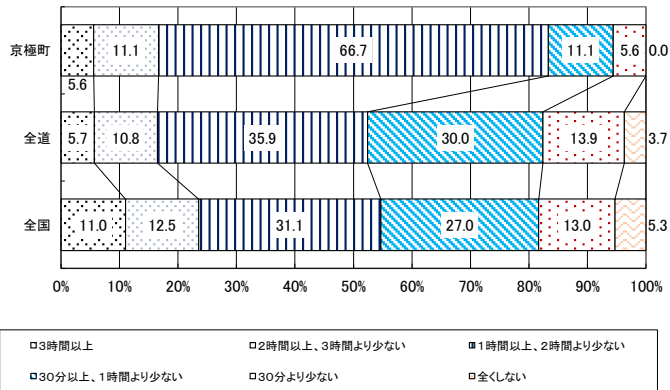
<学校質問調査>



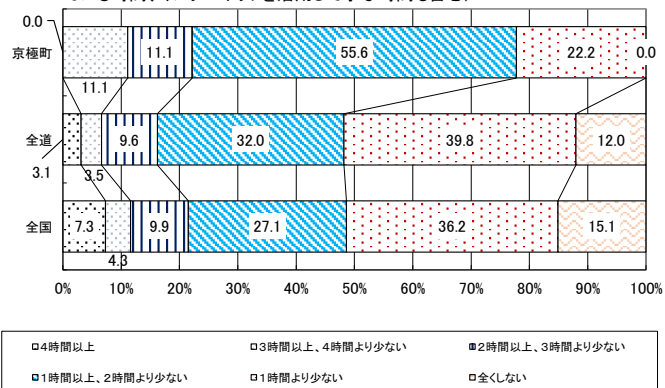
家庭学習

<児童質問調査>

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

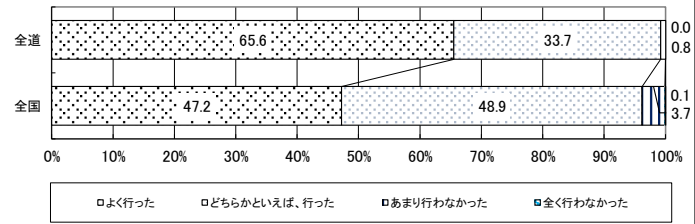


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



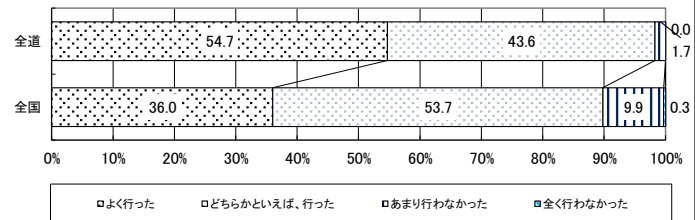
<学校質問調査>

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



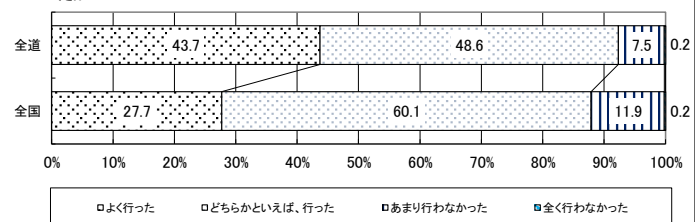
学校は「よく行った」と回答しました。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか



学校は「よく行った」と回答しました。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか



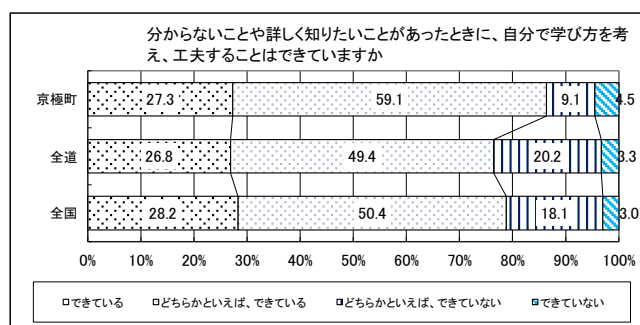
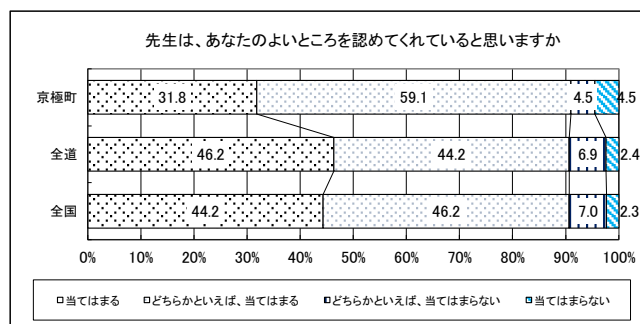
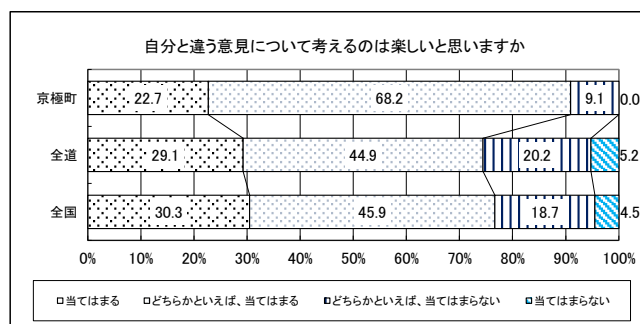
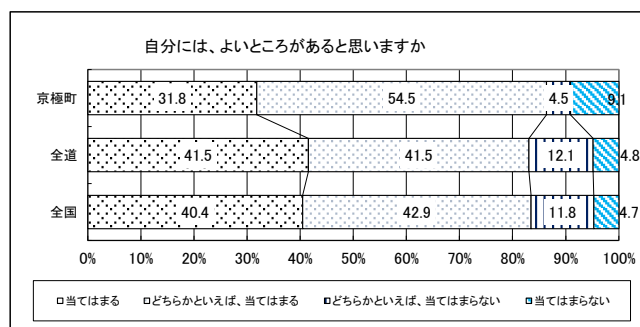
学校は「よく行った」と回答しました。

【考察】

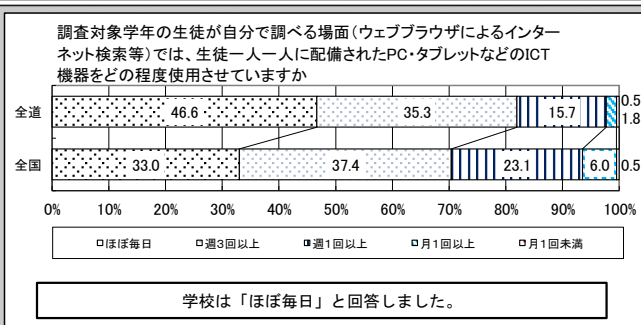
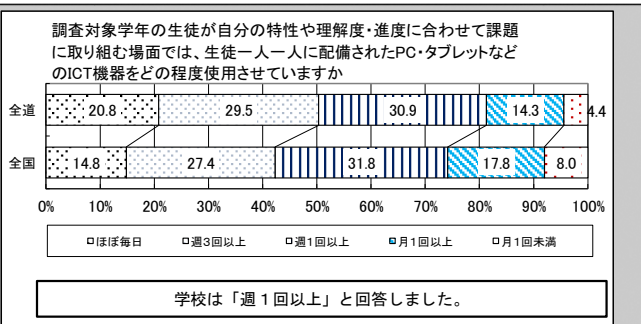
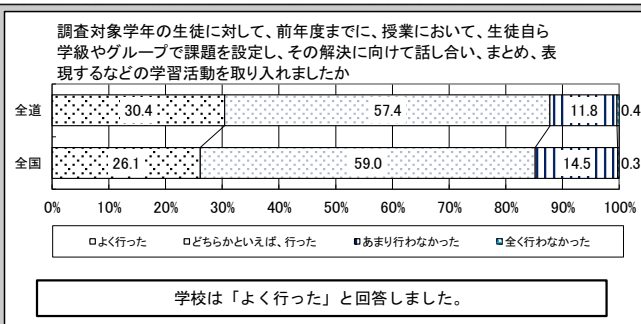
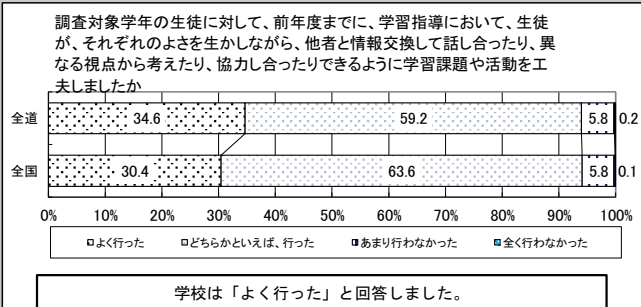
小学校で家庭学習の目安としてよく示している「学年×10分+α」を基準としてみると、家庭学習を1時間以上行っている児童は、全国平均より30%ほど高くなっている。また、全国的に土日の学習時間が平日よりも短くなる傾向にある中、土日も全く学習をしない児童が0となっていることについて、家庭学習に係る学校の働きかけの成果が出ているものと推察できる。

学習指導等

<生徒質問調査>



<学校質問調査>

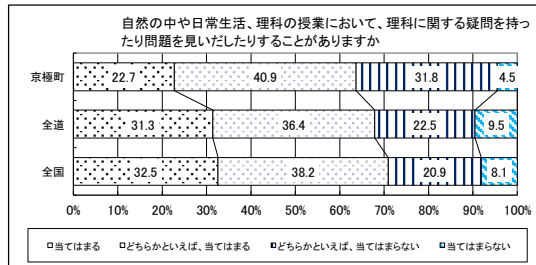
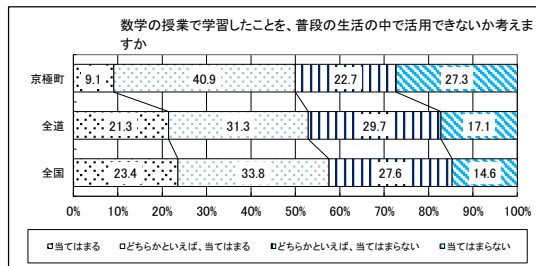
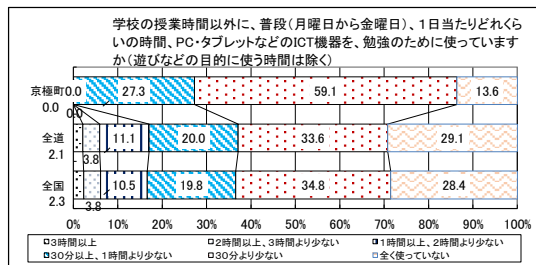
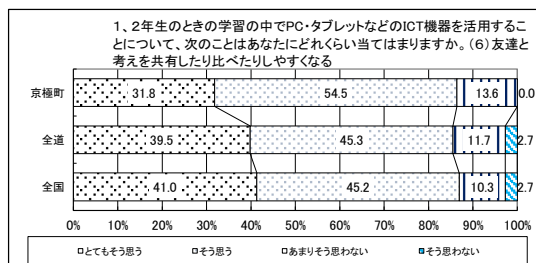
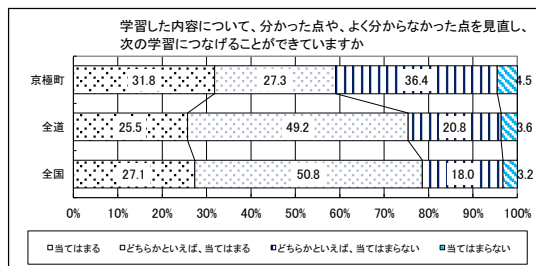
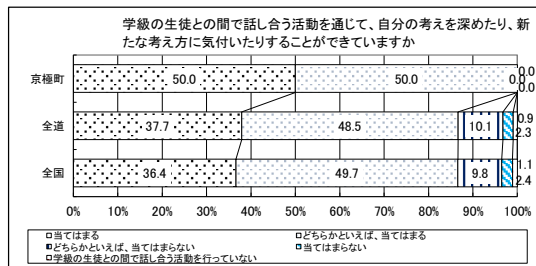
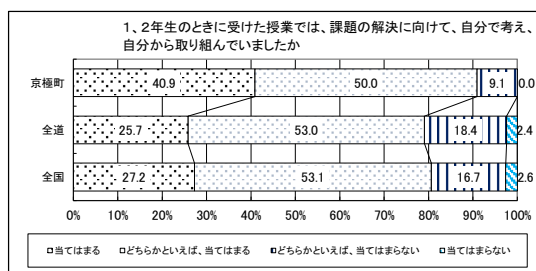


【考察】

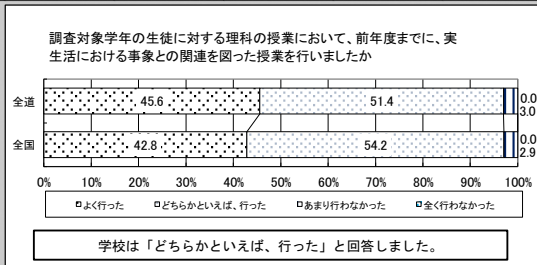
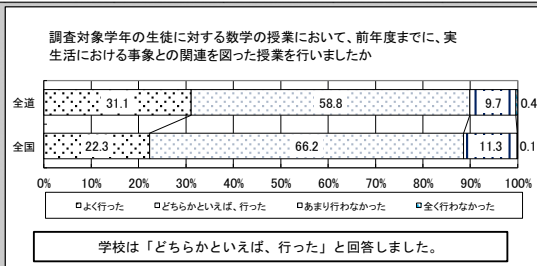
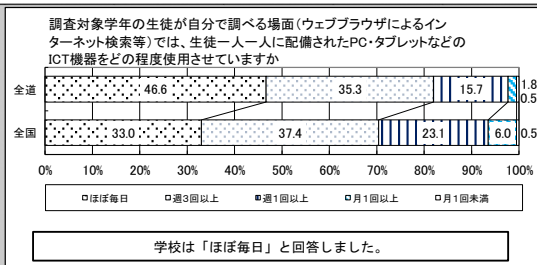
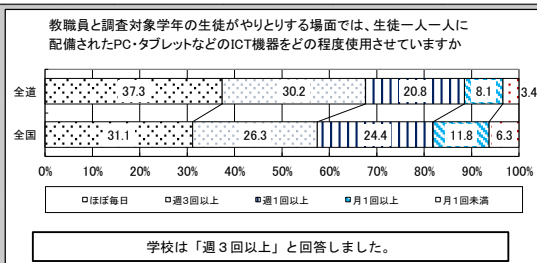
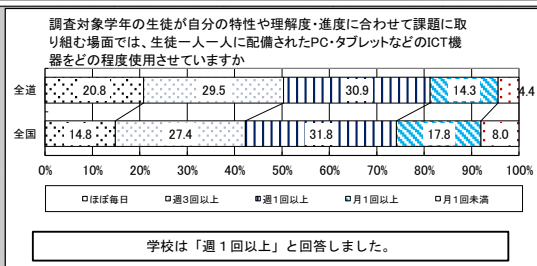
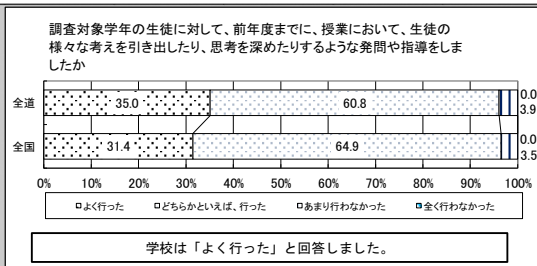
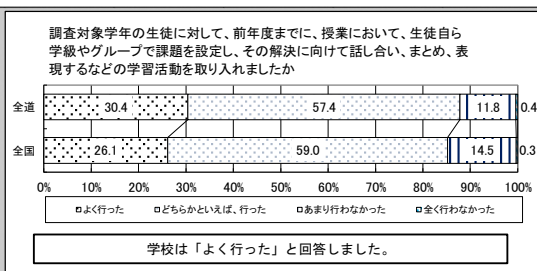
「自分には、よいところがあると思いますか」や「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」などの「承認欲求」「所属欲求」に関わる質問では、全国平均並みの傾向にあり、特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について否定的な回答をした生徒については、生徒の現状について学校全体で共有していくことが望まれる。

授業改善について、全教科に関連のある質問については、ほぼ全ての項目で肯定的回答が全国平均を上回っている。しかし、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」については、否定的回答が全国比より20%ほど上回ってしまっている。授業の「ふりかえり」に関連する質問となるが、生徒にとって見直しが十分ではない・難しいのか、次の学習につなげることが十分ではない・難しいのか、詳細について校内で検証することで、さらなる授業改善につなげることが期待できる。

<生徒質問調査>



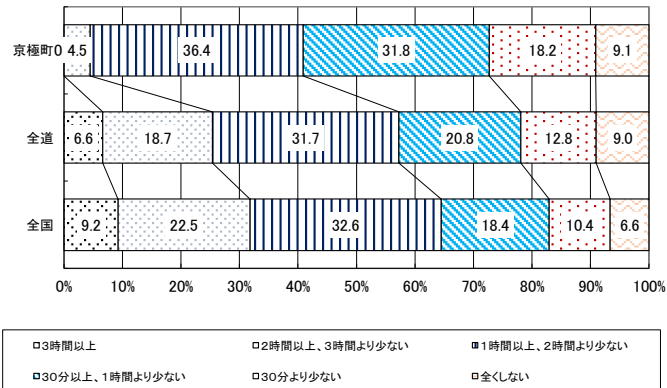
<学校質問調査>



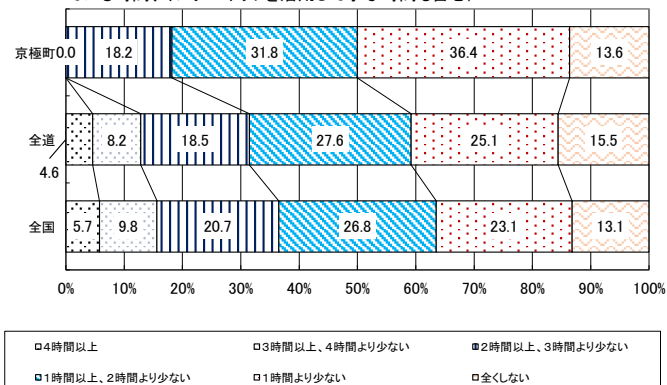
家庭学習

<生徒質問調査>

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

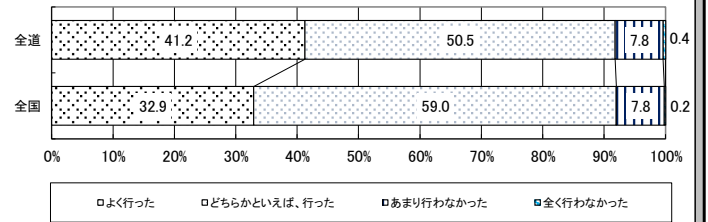


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



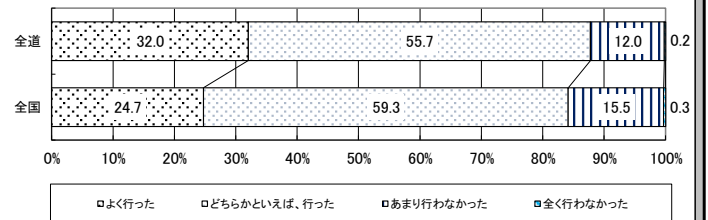
<学校質問調査>

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



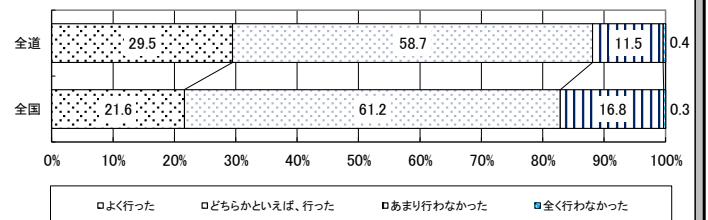
学校は「よく行った」と回答しました。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか



学校は「どちらかといえば、行った」と回答しました。

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか



学校は「どちらかといえば、行った」と回答しました。

【考察】

家庭学習時間を聞いた質問内容となっており、小学校でよく目安として使われる「学年×10分+α」を一つの指標として考えたとき、少なくとも1時間以上の家庭学習を行っている生徒は、全国平均と比べ概ね20%ほど少ないことがわかる。フリードリヒ・エンゲルスの「量質転化の法則」のように、一定量を積み重ねることで、質的な変化を起こすことを期待して、量(問題数なのか、ページ数なのか、時間なのか)について目安となるものを示すことも検討しても良いのではないかと考える。

3. クロス分析

※左2行：小学校、右2行：中学校

※質問番号は小学校の番号を表示

1. 朝食を毎日食べていますか

	国語	算数	国語	数学
している	64.3	62.5	59.6	54.0
あまりしていない	42.9	37.5	49.3	25.0

2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

	国語	算数	国語	数学
している	67.5	64.6	59.3	52.0
あまりしていない	42.9	37.5	44.4	18.8

3. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

	国語	算数	国語	数学
している	67.3	64.6	61.3	52.1
あまりしていない			100	87.5

5. 平日のゲームプレイ時間は

	国語	算数	国語	数学
2時間以上	47.2	42.5	50.0	34.4
2時間未満	74.3	71.9	66.0	63.2

6. 平日、スマホで SNS や動画視聴時間は

	国語	算数	国語	数学
2時間以上	37.5	32.9	48.7	32.5
2時間未満	75.3	72.7	63.0	59.1

16. 学校に行くのは楽しいとおもいますか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	66.9	63.9	56.6	49.4
否定評価	42.9	37.5	63.4	28.2

主に生活習慣に関わる質問では、朝食を毎日食べている児童生徒は、そうではない場合と比べておよそ 10～20P 高い。就寝時刻についても、ほぼ同様の結果が出ていると言える。また、令和 5 年度の分析結果から、「起床時刻が決まっている児童生徒は学習内容の定着が高い」と示したが、6 年度は起床時刻があまり決まっていない児童生徒は 1 名しかいなかった。

ゲームや動画視聴についても、朝食・就寝・起床よりも如実に結果が出ており、ゲームも動画も 1 日 2 時間以内と決めている児童生徒は最大 40P ほど高くなっている。

このことから、一昔前に合言葉としてよく使われていた「早寝・早起き・朝ごはん・(TV・ゲームは 2 時間以内)」について、具体的な数字を示すことでよりわかりやすい啓発になるように思う。

17. 自分と違う意見について考えるのは楽しいか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	66.7	64.1	56.4	49.1
否定評価	59.5	54.2	66.7	31.3

20. 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	66.8	63.9	59.0	52.0
否定評価	42.9	37.5	46.7	18.8

25. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	66.9	63.9	56.9	49.4
否定評価	42.9	37.5	66.7	6.3

28-1. (ICT 機器の活用) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	60.7	60.4	60.3	49.0
否定評価	83.3	68.8	37.8	37.5

28-6. (ICT 機器の活用) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	62.1	60.6	60.7	50.3
否定評価	85.7	71.9	35.6	29.2

30. 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	69.8	67.3	60.7	50.3
否定評価	35.8	28.2	23.3	18.8

33. (話し合い) 自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	67.8	65.2	57.3	47.4
否定評価	28.6	18.8		

34. (振り返り) 次の学習につなげることができていますか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	66.8	63.8	62.0	53.9
否定評価	42.9	37.5	50.3	38.2

35. 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思っていますか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	67.4	63.0	55.2	47.9
否定評価	35.7	50.0	66.7	45.3

42. 国語の勉強は好きですか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	68.9	67.6	60.7	49.0
否定評価	55.4	46.9	35.6	37.5

50. 算数(数学)の勉強は好きですか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	75.0	73.8	66.7	61.9
否定評価	45.7	38.8	49.4	35.4

58. 理科の勉強は好きですか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	67.3	64.6	57.1	47.6
否定評価			57.8	46.9

61. 英語の勉強は好きですか

	国語	算数	国語	数学
肯定評価	66.5	63.5		
否定評価	57.1	53.1		

授業改善の参考となる質問項目では、28-1 や 28-6 のように、否定的回答をする児童の方が高い傾向にあることから、個別最適な学びについてより追求していくためのヒントとなっているように思う。

〇〇の勉強は好きですか? という質問については、「〇〇の授業は～」となっていないことに注意したい。4教科を比べると、「算数(数学)の勉強は好きですか」に肯定的評価をした児童生徒が、国語・算数(数学)ともに最も平均点が高い。このことから、「算数(数学)が好き」な児童生徒を増やすことは、学力定着の底上げに最も効果的と言えるかもしれない。別紙に示すように、平成 20 年からの正答率の推移を見ると、町内では慢性的に算数(数学)の定着に課題があると考えられる。まずは、「算数(数学)が苦手」(系統性からは特に算数)とする児童生徒をできるだけ少なくするための工夫について、小中合同研修を行うなど検討してもよいのではないかと考える。

教職員定数加配の「創意工夫支援」や「指導方法工夫改善」の活用も有効な手立てかもしれませんが(※学校の考えを妨げたり、考えを押し付けたりするものではないため、参考程度に)。